

基調講演

時間:【第1部】13:20~14:05
会場:3F グレース

【講師プロフィール】

昭和47年6月 東京大学大学院農学系研究科農業生物学専門課程博士課程を修了し、翌年、東京大学農学部採用。農学部教授を経て平成11年4月より東京大学副学長、平成16年3月に東京大学を定年退職。平成19年4月 総合理工学研究機構総長に就任。

この間、農林水産省農業資材審議会委員、同省独立行政法人評価委員会委員、文部科学省審議会専門委員、日本学術会議会員、山梨科学アカデミー会員などを歴任。



山梨県総合理工学研究機構 総長
東京大学名誉教授 農学博士
小林 正彦 氏

テーマ: 『ものづくりとガラパゴス化
—山梨からガラパゴスを抜け出そう—』

【講演概要】

ものづくり高じてガラパゴス化する。「ガラパゴス化」とは 大陸や他の島から隔離されて独自の進化をとげたガラパゴス諸島の生物に例えた表現であり、特に我国の携帯電話などの「ものづくり」が独自の発展を遂げ、世界のスタンダードから乖離した姿を表す最近の造語である。その日本の携帯電話を「ガラパゴス携帯」、略して「ガラケー」と言う。

山梨県はこの「ガラパゴス化」の先人である。国は立国の礎として科学技術基本法を1995年に定めたが、山梨県科学技術政策大綱の制定は1992年で国より3年先行している。JRのSuicaや私鉄のPASMOなどの非接触ICカードは2001年と2004年から利用開始されたが、山梨交通のバスICカードは2000年から利用開始している。

ガラパゴス化を脱するには適度な市場開放が必要で、世界は結構ずる賢いので安心は禁物。また、良いガラパゴスは頑なに守り、悪いガラパゴスは早く抜け出すことが肝要。